

***木下宙名誉教授から談話会記録などを収蔵**

国立天文台にOB室があり、名誉教授数人、OB数人のデスクが置いてある。筆者もOBの1人ではあるがOB室にはデスクを置いていないが、時折お茶の時間にお邪魔して歓談している。2014年1月17日にお邪魔した際、貴重な資料をアーカイブ資料としてお預かりした。以下の8点である。写真1が1) 東京大学理学部天文学教室談話会記録第1回～第300回、写真2が2) 東京大学東京天文台談話会記録 No. 451～No. 700 である。



写真1

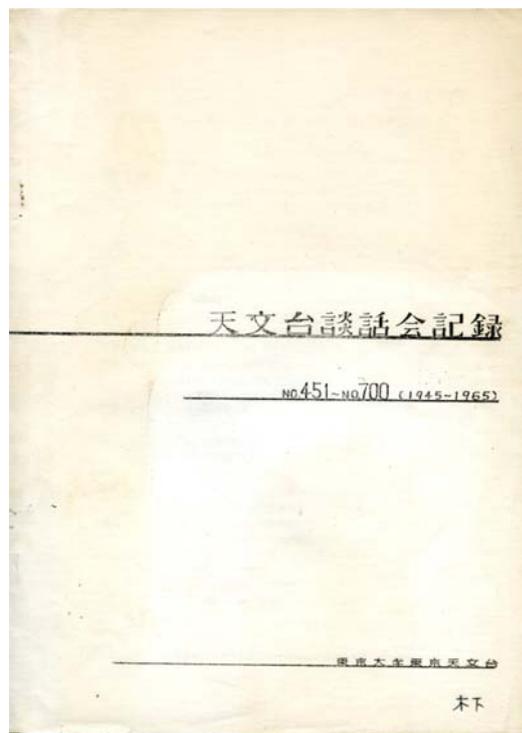


写真2

- 1) 東京大学理学部天文学教室談話会記録 第1回(昭和3年11月)～第300回(昭和37年9月)
- 2) 東京大学東京天文台談話会記録 No. 451～No. 700 (1945年12月～1965年12月)
- 3) 東京大学東京天文台談話会記録 No. 801～No. 900 (1971年(昭和46年)4月～1974年(昭和49年)5月)
- 4) 東京大学東京天文台談話会記録 No. 901～No. 979(1974年(昭和49年)6月～1976年(昭和51年)12月)
- 5) 東京大学東京天文台談話会記録 No. 980～No. 1000(1977年(昭和52年)1月～1977年(昭和52年)7月)

6) 東京大学東京天文台談話会記録 No. 1001~No. 1070(1977年(昭和52年)9月~1979年(昭和54年)6月)

この間、抜けている第1071回は、1979年6月29日:海部宣男、宮沢敬輔、森本雅樹、赤羽賢司、田中春夫「45m電波望遠鏡の精度」、第1072回は、1979年7月6日:大木健一郎「太陽硬X線の2成分について」であった。

7) 東京大学東京天文台談話会記録 No. 1073~No. 1234(1979年(昭和54年)7月~1983年(昭和58年)12月)

8) 昭和27年~昭和43年間の東京天文台教官の談話会登壇数調査表の8点を収蔵した。

1)、2)は談話会の年月日、講演者演題のみをガリ版で印刷したものであり、3)、4)、5)は大学ノートに年月日、講演者、演題、講演要旨が書かれたものであるが、講演要旨は書かれていないことも多い。6)は固い表紙のバインダーノートに年月日、講演者、演題、講演要旨が書かれ、7)はフラットファイルに年月日、講演者、演題、講演要旨が書かれ26穴のノート用紙を閉じたものである。8)は木下氏が作成した昭和27年から昭和43年までに談話会で天文台教官が話した記録が表になっており、天文台に所属した教官の研究密度の評価にもなっている。

東京大学東京天文台談話会は1988年6月24日の1409回が最後であり、スピーカーは、T. J. Rafferty (合衆国海軍天文台)、演題は「Astrometric Activities in Southern Hemisphere」であった。これは1988年7月1日に東京大学東京天文台が国立天文台に改組転換されたことにより、東京大学東京天文台が幕を閉じたことによる。1988年6月までの東京天文台談話会記録は、国立天文台年次報告第1号に記載があり、第1392回~1409回が載っている。

東京大学東京天文台の年次報告を遡ってみると、1965年まで遡れ、年間の開催の様子がわかる。

1987年	: 第1352回~第1391回	年間40回
1986年	: 第1312回~第1351回	年間40回
1985年	: 第1273回~第1311回	年間40回
1984年	: 第1235回~第1272回	年間38回
1983年	: 第1196回~第1234回	年間38回
1982年	: 第1160回~第1195回	年間39回
1981年	: 第1123回~第1159回	年間36回
1980年	: 第1087回~第1122回	年間37回
1979年	: 第1050回~第1086回	年間36回
1978年	: 第1016回~第1049回	年間37回
1977年	: 第980回~第1015回	年間34回
1976年	: 第947回~第979回	年間36回

1975年：第918回～第946回 年間34回
1974年：第887回～第917回 年間29回
1973年：第854回～第886回 年間31回
1972年：第825回～第853回 年間35回
1971年：第794回～第824回 年間29回
1970年：第762回～第793回 年間31回
1969年：第742回～第761回 年間32回
1968年：第729回～第741回 年間20回
1967年：第713回～第728回 年間13回
1966年：第701回～第712回 年間12回
1965年：第686回～第700回 年間15回

東京天文台年次報告に談話会記録があるのは、1965年からであり、1964年版の年次報告にはその記録はない。また年次報告の第1巻は、1957年1958年が合冊で東京天文台報別冊として1959年10月に発行されている。

今回収蔵した東京天文台談話会記録は、第451回から始まっているから、年次報告の記録より古いものが含まれている。年次報告に現れるのは第686回からである。

また、第1回から第450号の談話会記録はおそらく、昭和20年2月8日未明の東京天文台本館の火災によって失われたと思われる。談話会記録を眺めるとその当時の研究の様子が知れるので、第450回以前のものがないのは非常に残念である、第451号は1945年12月12日水曜日であり、戦後の談話会活動が昭和20年12月から始まったと思われる。

第451回談話会は、末元善三郎「太陽彩層に於ける輻射の輸達について」、広瀬秀雄「反射鏡とレンズとを組合わせた望遠鏡について—球面反射鏡と薄レンズとを組合わせた望遠鏡について—」というものであり、広瀬秀雄がシュミット望遠鏡の研究を始めたことがうかがえる。次号以降にそれぞれの記録について記事を書く予定である。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp